

総合的な学習の時間 単元計画としての学習指導案

単元の計画を具体的に表現するには、例えば次のような項目を学習指導案に位置付けることが考えられる。

平成30年度 ○○小(中)学校 総合的な学習の時間 第○学年(○年○組) 学習指導案

1 単元名

総合的な学習の時間において、どのような学習が展開されるかを一言で端的に表現したものが単元名である。総合的な学習の時間の単元名については、例えば、

- ・児童(生徒)の学習の姿が具体的にイメージできる単元名にすること
- ・学習の高まりや目的が示唆できるようにすること

などに配慮することが大切である。

2 単元の目標

どのような学習を通して、児童(生徒)にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確に示したものが単元目標である。各学校の総合的な学習の時間の目標や内容を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成することが考えられる。なお、目標の表記については、一文で示す場合、箇条書きにする場合などが考えられる。

3 児童(生徒)の実態

単元を構想し、構成する際には、児童(生徒)の実態を明確に把握する必要がある。特に、目標を実現するにふさわしい探究課題(これまでの学習経験)、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について、どのような実態であるかを把握しておくことが欠かせない。また、中核となる学習活動について、どのような経験をもっているのかも明らかにする必要がある。

なお、児童(生徒)の実態の背景や原因を教師の指導の立場から分析し、記述することが大切である。

4 教材について

教材とは、児童(生徒)の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことである。単元計画の中に教材について記すに当たっては、教材の紹介にとどまらず、児童(生徒)がその教材に出会うことによって学ぶ学習事項について分析し、教材のどこに価値があるのかを具体的に記すことが大切である。

5 指導について

探究の各プロセスにおいてどのような指導の工夫を行うのかを具体的に記述する。探究の各プロセスとは、①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現のそれぞれのことである。また、児童(生徒)の主体性や協働的な学習を重視するとともに、各教科等との関連や、地域の教育資源の活用等、探究的な学習を具現するために必要な教師の指導について記述することが大切である。

6 育成を目指す資質・能力

探究課題	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<p>本単元における探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力を示す。 特に、探究課題の特質に応じて児童（生徒）が獲得する概念的知識を具体的にイメージすることが大切である。 また、各学校がこれまで観点として設定してきた「学習方法に関すること」は「思考力, 判断力, 表現力等」に対応し、「自分自身に関すること」「他者や社会との関わりに関すること」は「学びに向かう力, 人間性等」に対応することを踏まえる。</p>			

6 単元の評価規準

探究課題	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>評価規準の設定については、まず、各学校の全体計画や単元計画を基に、単元で実現が期待される育成を目指す資質・能力を設定する。総合的な学習の時間の目標や内容を設定する際には、年間や単元を通してどのような資質・能力を育成することを目指すかを設定することとしているため、評価規準については、年間や単元を通して育成を目指す資質・能力をそのまま当てはめることができる。各観点に即して実現が期待される児童（生徒）の姿が、実際の探究的な学習の場面を想起しながら、単元のどの場面のどのような学習活動において、どのような姿として実現されるかをイメージする。</p>			

7 単元の展開（全○時間）

単元の展開では、目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力、児童（生徒）の興味・関心を基に中核となる学習活動を設定する。どのような資質・能力の伸長を期待しているのかを想定しながらの作業となる。

【育成を目指す具体的な資質・能力と、具体的な学習活動を明らかにする必要がある】

単元の学習を通して、どのような概念的な知識を児童（生徒）に獲得してほしいのか、どのような思考力, 判断力, 表現力等や学びに向かう力, 人間性等の伸長を期待しているのか（資質・能力）を明確にし、児童（生徒）の興味・関心から始まる学習活動の連続が、探究的な学習活動となるよう単元を構想（具体的な学習活動）しなければならない。この段階では、具体的な時数や学習環境なども視野に入れ、単元の展開を具体化することが求められる。

【小学校学習指導要領解説 総合編 P. 104】【中学校学習指導要領 総合編 P. 99～】

※「6 育成を目指す資質・能力」または「6 単元の評価規準」はどちらか一方の示し方をしていくが、その際、資質・能力の3つの柱で整理することが望ましい。ただし、「学びに向かう力, 人間性等」には、「感性」や「思いやり」といった幅広いものが含まれており、客観的な評価になじまないことから、「主体的に学習に取り組む態度」としてWGにおいて論議されていることに留意する。



1 単元名 佐伯駅弁開発プロジェクト
 ～「佐伯ならではの幸」でおもてなし～（全70時間）

2 単元の目標

「佐伯にもっと観光客を増やしたい」という思いの実現に向けて、佐伯の特産品を使った弁当を開発して発信する活動を通して、佐伯の活性化に関わる人々の思いや願いと自分たちにできることに気づき、地域の一員として進んで行動しようとする態度を育てる。

3 児童の実態

子どもたちの総合的な学習の時間に対する意識は高い。本校は学級総合を基本としており、毎年調査しているアンケートでは、学級の全児童が総合的な学習の時間が「とても好き」「まあまあ好き」と答えており、毎時間楽しみにしている。好きな理由としては「いろいろな体験ができる」「自分たちの考えた方法で活動できる」「みんなと協力して学習できる」「やり遂げたいうれしさや楽しさを感じることができる」が挙げられている。そして、総合的な学習の時間で学んだ事や経験したことが他教科や日頃の生活に役立っていると考える子どもの割合は71.4%と多い。

昨年までの学習の中で、思考ツールを使って整理し、課題についての話し合いを繰り返し、活発な意見交換ができるようになってきている。しかし、目的や意図に応じた思考ツールを自ら選択して活用するまでには至っていない。これは、教師から提示された思考ツールを使って話し合う場面が多く、課題の解決に向けて話し合う目的や意図、ゴールイメージを明確にもたせることができていなかったからであると考えている。

また、昨年度の総合的な学習の時間において、クラス全員で音を奏でる「ボディーパーカッション」や自分たちでペットボトルロケットを作成しての「ミニミニ宇宙開発」など、各学級の取組の中で、多様な体験活動を行い、新しいもの（こと）を自分たちで創り上げることの楽しさや難しさを実感している。

4 教材について

これまでにない「佐伯駅弁を開発する」ことに強く関心をもつことが期待できる。また、商品化という中核となる活動を仕組むことで、子どもたちが相手（消費者）を意識しながら、主体的に学習活動を進めていくことが期待できる。

また、駅弁の材料となる「どのような特産品があるのか」「地域ならではのこだわり」などについての情報を収集する中で改めて佐伯のよさを見つめ直すこともできる。さらに、「自分たちだけで駅弁を作れるのか」「駅長さんの思いを実行することにつながっているのか」という目

【単元の目標の構成】

学習内容
 学習活動
 資質・能力

これまでの総合的な学習の時間の経験を踏まえる。

どのような内容を学び、どのような資質・能力を身に付けているのか等、児童（生徒）の実態を把握するとともに、教師の指導の立場から分析する。

この単元で児童（生徒）が学ぶ学習事項について分析する。単元の独自性や重点が分かるようにする。

的に応じた整理・分析をしたり、活動の様子をまとめて紹介したりする表現活動など、探究的な学習のプロセスを繰り返すことができる教材である。

活動していく中では、子どもたちが乗り越えていくべき問題も生じるであろう。その壁を乗り越える場を主体的、協働的な学習の機会として生かすことができる。また、課題解決のためには地域の方の力を活用することの重要性を学ぶ機会も設定できる。

このような主体的な活動の中では、KJ法・座標軸・ピラミッドチャート・くま手チャート・ボックスチャート等の思考ツールの活用を助け、子どもたちが課題を解決しようとする場面で比較する力や関連付ける力を中心に思考力を身に付け、願いを実現しようとする態度を育てることができると考えている。

5 指導について

(1) 活動全体を見通した留意点

- 失敗や躓きを予想して、「学び」の場面として生かす。
- 思考ツールを積極的に活用し、目的に応じて選択できるようにする。
- 仲間や地域の方々、専門家等との協働的な学習の機会を増やし、共に学ぶことの楽しさを実感できるようにする。
- 国語科・家庭科を中心として、各教科等との関連を図る。

(2) 探究的な学習プロセスの構成

ア 課題設定の工夫

まず、佐伯駅を見学し、駅（市）の現状や駅長さんの熱い思いを聞くことで、観光客を増やすために自分たちも協力したいという気持ちをもたせ、「駅弁開発」を課題に設定する。佐伯駅ならではの「めだま」を作ることを仕掛け、より積極的に取り組めるようにする。ステップ2では、まず、自分たちが食べたい駅弁をイメージする。その後、自分たちの好みだけで良いのかどうかを考え、買い手の立場になって駅弁を考えていく。ステップ3では、自分たちの力だけでは「駅弁」を作ったり売ったりすることは難しいという困りから、地域の方々と協働したいという思いをもたせ積極的にPRできる場を設定する。躓きが生じた時には、一度の失敗で諦めて終わりにならないように、地域の方や家族に協力してもらい、活動の方向性を自分たちで考えさせたい。

イ 情報収集の工夫

情報を収集するにあたっては、活動の目的を意識させることで、「だれが」「だれに」「何を」「どのようにして」などの観点を踏まえるようにする。目的に応じて手段を選択し、課題解決のために必要な情報を集めることができるようにしたい。さらに、収集し

探究の各プロセスにおいてどのような指導の工夫を行うのかを具体的に記述する。

【課題設定】児童（生徒）の課題意識が連続発展するような教師の手立てが大切である。

- ・意図的な働きかけ
- ・学習対象との関わり方や出会わせ方を工夫
- ・対象に直接触れる体験活動など

【情報収集】目的に応じた多様な方法で必要な情報を取り出したり収集したりする。

- ・情報は多様であり、収集する方法によって異なる。
- ・体験を通じた感覚的な情報収集を大切にする。
- ・自覚的に行う。
- ・収集した情報は蓄積する。

た情報は適切な方法で蓄積するようにする。

ウ 整理・分析の工夫

体験したことや情報を整理・分析する段階では、多様な思考ツールに触れさせていきたい。集めた情報を整理するために、マトリックス表やグラフを用いる。最終的には、自分たちで情報を整理・分析する手段として、いろいろな思考ツールを自分たちで選択し活用できるようにさせたい。それを繰り返す中で、子どもにとって考え方の方向性が見える適切なツールを自分たちで選び、活用する力を付けさせたい。また、効果的な板書や発問、話し合いの論点を明確にする等の工夫で、子どもたちが根拠をもとに自分の考えを表現したり思考を深めたりできるようにしたい。

本単元で活用されることが予想される思考ツールは、座標軸、ピラミッドチャート、メリット・デメリット、ボックスチャートなどである。これらを、目的や必要に応じて選択したり組み合わせたりしながら活用する力を付けるとともに、自分たちの考えを生かした学習活動が展開されるよう支援していきたい。

エ まとめ・表現の工夫

駅弁ができたなら、それを「めだま」に観光客を呼び込みたいこと等について、佐伯駅、観光協会、まち作り団体、お店に対する様々なプレゼンテーションの仕方を考え、相手や目的、自分たちの意図を明確にする。その際、友達と話し合ったり協力し合ったりして準備をしていくことを大切にする。活動の最終場面では、自分たちが開発した駅弁をたくさんの人たちに味わってもらう場を位置付ける。そのことにより、自分たちの力でできたという達成感や、地域のために開発できたという成就感を味わわせたい。さらに、1年間の活動を振り返りや駅弁にこめた思いなどをプレゼンにし、地域に出かけて表現する活動を行う。最終的には、自分たちが考えた駅弁で佐伯を訪れている人たちをおもてなしし、感謝の気持ちを伝え、このプロジェクトの終わりにしたいと考えている。

オ 自己のよさや学びのよさに気付かせるための工夫

活動途中や活動後に、子どもたちが学んだことを生かしている姿を教師自身が見付け、すぐにフィードバックする「その都度評価」を行うことで、学びのよさを実感できるようにしていきたい。なお、「その都度評価」を行う際には、「付けたい力」だけにとらわれるのではなく、一人ひとりの個人内評価を重視していきたい。また、地域の方々からの評価等もいただきながら、子どもたちが主体的に活動できるようにしたい。1時間ごとの振り返りの中で、友だちの良さやがんばりを紹介するとともに、自己の成長に気付

【整理分析】収集した情報を整理したり分析したりして思考する場面を位置付ける。

- ・「考えるための技法」の活用を意識する。
- ・考えを操作化、可視化する思考ツールの活用を検討する。
- ・子ども自身が情報を吟味する。
- ・どのような情報がどの程度収集されているか把握する。
- ・どのような方法で情報の整理分析を行うのか決定する。

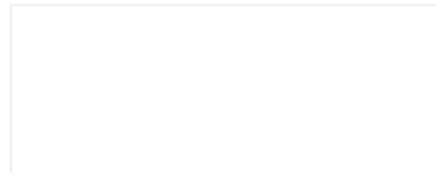
【まとめ・表現】気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

- ・相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりする。
- ・まとめ表現が、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながる。
- ・伝えるための具体的な方法を身に付ける。(各教科等の表現様式の活用)
- ・外部への発信と評価により、子どもたちに達成感を味わわせる。

【評価と振り返り】資質・能力を育成することができているかどうかを見取る。

- ・個人内評価を大切にする。
- ・多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせる。
- ・学習内容を確認する振り返り
- ・学びの価値を実感する振り返り
- ・学びの手ごたえを実感する振り返り

かせる。子どもたちの振り返りを次時の導入に活用するなどして、子どもたちの活動と思考を連続させていきたい。



6 育成を目指す資質・能力（例：一部）

探究課題	A 知識及び技能	B 思考力, 判断力, 表現力等	C 学びに向かう力, 人間性等
佐伯の特産品やそれに関わる人々及び地域の活性化を目指す人々の思いや願いとそれを実現することの意義	①地域には海・山・川の自然を生かして生産される特産品が存在していることに気付く（多様性） ②食を生かしたまちづくりを推進している組織や人々の思いや願い，取組の工夫や努力が分かる（工夫・努力） ③食を核として多くの地域がつながり，それぞれが連携したまちづくりに取組んでいることが分かる。（連携性）	①地域の人，もの，ことの中から課題を見出している。 ②目的に応じた情報を収集している。 ③情報や考えを比較・関連付け・焦点化するなどして考え，解決策を見出している。 ④相手や目的に応じて表現している。	①他者と協力したり助け合ったりして，物事を成し遂げようとする。 ②進んで地域の方々や地域社会に関わろうとしている。

7 単元の展開（全70時間）※例

過程	主な学習活動	時数	指導のポイント等	評価規準
全体課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○駅に出かけ、駅長のお話を聞いたり、駅周辺の様子を見学したりする。 ○駅長のお話や見学したことを整理し、自分たちにできることを考える。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・駅長に学習のねらいを事前に伝えておく。 ・「佐伯のために自分たちにできることはないか」という視点で情報を整理し、課題を設定する。 	B-①
	佐伯市に観光客を増やすために、 佐伯ならではのオリジナル駅弁を作ろう！			
情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ○どんな駅弁を作りたいか視点を決めて考え、駅弁イメージ図をつくる。 ○お客さんが食べたい駅弁について考える。 ○駅弁を作るために知りたいことを出し合い、インタビュー等で情報を収集する。 	15	<ul style="list-style-type: none"> ・KJ法やウェビングマップを使用して、イメージを広げる。 ・食べる人たちの立場からも考える場を設ける。 ・保護者、地域の方等にアンケートやインタビューを行う。そのため、そのための時数を確保する。 	B-② C-① C-②
	<ul style="list-style-type: none"> ○インタビューで集めた情報を整理し、学級で共有する。 ○集めた情報をもとに、駅弁の駅弁イメージ図（2回目）をつくる。 ○必要に応じて、栄養教諭からもアドバイスをもらう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに収集した情報を共有することで、学級全体のものとする。 ・収集した情報を生かしてイメージ図をつくるようにする。 	B-③
整理・分析、表現			家庭科との関連 (調理・栄養・献立等)	
課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○2回目の駅弁イメージ図をたくさんの人に紹介して、意見をもらう。 ○もらった意見を踏まえて、自分たちの駅弁に欠かせない要素を決める。 	25	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたい、買いたいなどの視点を決めて、フリップボードで意見を集める。 ・多様な意見が集まるため、視点を決めて座標軸やピラミッドチャートなどを活用して整理したり、焦点化したりする。 	B-① C-②
	「佐伯ならではの食材」を使った 「時間がたってもおいしい」オリジナル駅弁をつくろう			

年間指導計画と照らし合わせながら、探究的な学習の過程が質的に高まるよう、具体的に書く。

児童（生徒）の思いや意識の流れを予想して記述する。
児童（生徒）が自ら探究活動を進めるイメージをもって、学習活動のまとまりを示す。
探究的な学習の過程が充実するよう、探究プロセスを複数回繰り返すようにする。

情報の収集	○「佐伯ならではの」食材についての情報を集める。		<ul style="list-style-type: none"> 旧市町村の特産品などについて、パンフレットなどから情報を集める。 Yチャートで整理する。 	B-② C-②
整理・分析(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○おかずに使う「佐伯ならではの食材」を絞り込む。 ○グループで話し合い、食材を決め、学級全体で話し合う。 ○「佐伯ならではの」「時間がたってもおいしい」という視点に沿って話し合う。 		<ul style="list-style-type: none"> くま手チャートで、選んだ食材の理由付けを明確にする。 ピラミッドチャートやボックスチャートを使い、選んだ食材をさらに絞り込む。 	B-③ C-①
まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○おかずに使う食材を決定し、どんなおかずを作りたいか考える。 ○調理する。 		<ul style="list-style-type: none"> ウェビングなどで考えを広げる。 レシピにまとめる。 観光協会、商工会議所などのスタッフ、駅長にも相談し、完成した駅弁について意見をもらう。 栄養教諭や調理免許を保有する専門家とともに進行。 	B-④ C-① A-①
課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○駅弁についての意見を踏まえ、完成した駅弁のPR方法を考える。 	25	<ul style="list-style-type: none"> 試食してもらった方からの意見を整理する。 	B-①
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 地域みなさんに自分たちが考えた駅弁をPRしよう </div>				
情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ○PRに必要な情報を収集する。 ○自分たちの思いや願いについても整理する。 		<ul style="list-style-type: none"> CMや新聞、広告などから情報を収集する。 	B-② A-②
整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ○PRするために必要な内容を考える。 ○PRするための方法を考える。 		<ul style="list-style-type: none"> 取組の経緯、経過、自分たちの思い、レシピなど、伝えたいことを焦点化する。 伝えたい内容が決まったら、それに合わせた方法を考える。 各教科等の表現技能を活用する。 	B-③ C-①
まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の駅弁をPRするイベントを行う。 ○学習を振り返る。 		<ul style="list-style-type: none"> これまで関わってくれた地域の方等を招聘して行う。 これまでの学習を、「自分自身」「他者との関わり」などの視点で振り返る。 	B-④ C-② A-③

探究課題及び育成を目指す資質・能力を踏まえ、どのような児童(生徒)の姿を期待したいかを考え、具体的に記述する。

国語科との関連(表現プロセス)

※「探究の過程に応じた必要な技能」は、単元や内容のまとまりの中で児童(生徒)が身に付けられるようにする。

8 本時案 (38 / 70)

(1) 本時のねらい


オリジナル駅弁の食材について、「佐伯ならではの」「時間がたってもおいしい」という視点に沿って、根拠や理由を明確にして話し合ったり、それぞれの食材のよさ等について比較したり多面的に検討したりすることを通して、佐伯の「めだま」となる駅弁にふさわしい食材を決定することができる。

(2) 展開 (45分)

学習活動及び予想される子どもの反応	時間	○教師の支援 ◆評価規準及び評価の方法															
1 前時を振り返りながら、本時の課題を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> くま手チャートで考えた食材の振り返りをする。 前時の振り返りシートを数人分紹介する。 	5	○前時の振り返りシートの中から、本時の課題につながる内容のものを紹介する。															
(めあて) 佐伯の「めだま」にふさわしい駅弁になるような食材を決めよう																	
<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの駅弁に欠かせない要素(視点)を確認し、それに沿って話し合うことを押さえる。 「佐伯ならではの」「時間がたってもおいしい」 2 個人が選んだ食材を出し合い、班で検討し、1～2個に絞り込む。 <ul style="list-style-type: none"> マトリックスを用いて多面的に話し合う。 個人のくま手チャートに記された根拠や理由を出し合う。 <table border="1" data-bbox="113 1120 914 1366"> <thead> <tr> <th>食材／視点</th> <th>佐伯ならではの</th> <th>時間がたってもおいしい</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ぶり</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ひじき</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>塩トマト</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>マリンレモン</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	食材／視点	佐伯ならではの	時間がたってもおいしい	ぶり	△	○	ひじき	△	○	塩トマト	○	○	マリンレモン	○	○	15	○話し合いの視点を板書に位置付け、意識させる。 ◆B-③ 情報や考えを比較・関連付け・多面的に検討するなどして考え、解決策を見いだしている。(発言分析)
食材／視点	佐伯ならではの	時間がたってもおいしい															
ぶり	△	○															
ひじき	△	○															
塩トマト	○	○															
マリンレモン	○	○															
3 班で絞り込んだ食材について、全体で検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ボックスチャートを黒板に位置付け、班で出された意見を全体で検討しながら、食材を決めていく。 <div data-bbox="113 1523 922 1892" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: right;">ごまだし</p> </div>	20	○食材名のみが発言が続く際には、「どうしてそうなったか」問いかけ、根拠を明確にするようにする。 ○全体での話し合いによって食材が決定されるよう、「みんなはどう思うか」等問いかけていく。															
4 本時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> 本時の話し合いを振り返り、次時のめあてについて考える。 	5	○本時の話し合いについての自分の思いや次時のめあてを書くよう助言する。															

9 板書計画





新大分スタンダード

新入社スタンダードで
主体性・自律性で深い学びを実現！


「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

- 1 1時間完結型

 - 「主体的な学び」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」
 - 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
 - 学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
 - 追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」
- 2 板書の構造化

 - 取手を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書
- 3 習熟の程度に応じた指導

 - 「具体的な評定標準」に基づく強かな息遣り
 - 「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫
- 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な時間



 - 「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」を践行する学習指導
 - 各教科等の「見方・考え方を働かせて展開する」
 ①問題化→ ②問題設定→ ③問いかけ→ ④学びの場づくり→ ⑤振り返り評価等の学習過程の振り返りの中で行われる
 - 知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を選択し、考えの創成、思いの育みに基づく創造
 - 様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・探究

H30.3月編